

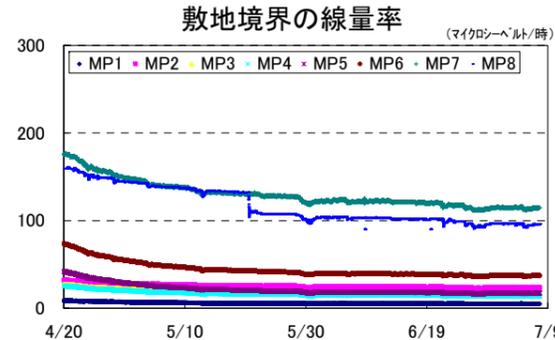
東京電力福島第一原子力発電所・事故の収束に向けた道筋 進捗状況のポイント

1. 基本的考え方(変更なし)

原子炉および使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組む。

2. ステップ1の総括

ステップ1期間でモニタリングポスト等が示す放射線量は減少傾向(右図)。また、現在の放射性物質放出量評価を東京電力が実施。これによる発電所敷地境界における被ばく線量評価は、最大でも約 1.7mSv/年(Cs134,137、暫定値)であり、事故当初と比較して十分に減少していることを確認(参考資料2参照)。以上より、ステップ1の目標「放射線量が着実に減少傾向となっている」の達成を確認。



①【課題(1)原子炉】:「安定的な冷却」に到達

- 以下の状況から、「安定的な冷却」の目標に到達したと考えている。
 - ✓ 原子炉圧力容器底部の温度が上昇傾向を示しておらず、原子炉で発生している熱(崩壊熱)を安定的に除去できていること
 - ✓ 処理施設が稼働して滞留水を増やさずに注水(循環注水冷却)が出来ていること
 - ✓ 注水の信頼性(異常時対策や複数の注水手段等)が確保されていること
 - ✓ 格納容器に窒素充填を行い、水素爆発が回避されていること

②【課題(2)燃料プール】:「安定的な冷却」に到達(特に2,3号機はステップ2目標の「より安定的な冷却」到達)

- 1号機は通常ラインによる注水を開始(1号機 5/29)。4号機も通常ライン代替として外部注入設備を設置(6/17)し、「安定的な冷却」に到達。
- 2,3号機は熱交換器による循環冷却を開始し、ステップ2の目標「より安定的な冷却」に到達(2号機 5/31、3号機 6/30)。

③【課題(3)滞留水】:保管場所を確保し、処理施設運転開始

- 処理施設は運転中。建屋内の滞留水を処理することにより、環境への意図しない漏洩リスクを低減。
- 保管のためのタンクは順次増設中。
- 処理に伴い発生する放射能濃度の高い廃スラッジは適切に保管。

④【課題(4)地下水】

- サブドレンの放射線分析や水量管理を実施。
- 建屋内滞留水の減少に伴い、サブドレンを排出するため、ポンプを順次復旧。

⑤【課題(5)大気・土壌】

- 1号機原子炉建屋カバーの本体工事を実施中。

⑥【課題(6)測定・低減・公表】

- モニタリングの範囲/サンプリング数を拡充し、測定及び公表。
- モニタリングポスト等が示す放射線量、海水の放射能濃度等の値は減少傾向。
- 一方、発電所港湾内の海水の放射能濃度は依然として高いため、循環型海水処理装置を稼働し、除染を実施中。

⑦【課題(7)津波・補強・他】

- 地震対策として、4号機燃料プールに支持物の設置工事中。
- 津波対策として、仮設防潮堤を設置(6/30)。

⑧【課題(8)生活・職場環境】

- 現場休憩所、仮設寮を増設中。シャワーや食事等の生活環境も改善。

⑨【課題(9)放射線管理・医療】

- 作業員の外部/内部被ばくの測定・評価を順次実施。ホールボディカウンタ配置の増強中。
- 緊急被ばく医療の専門医師等が24時間常駐(複数化)、救急医療施設を開設(5,6号機サービス建屋内、7/1~)。
- 防衛省・防衛医科大学校より惨事ストレスの専門家派遣。メンタルヘルス対策実施中(7/10)。
- 熱中症予防対策を実施中。

3. ステップ2の目標・達成時期

- 目標「放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている」と達成時期(今後3ヶ月~6ヶ月)に変更なし。
- 【課題(1)原子炉】:循環注水冷却を継続し、圧力容器温度等をしっかりと監視し、「冷温停止状態」に持ち込む。
- 【課題(2)燃料プール】:1,4号機の循環冷却システム設置工事を進め、2,3号機と同様に循環冷却を目指す。
- 【課題(3)滞留水】:処理施設の安定稼働に務め、滞留水全体量の減少を目指す。
- 課題(4)~(8)については、ステップ1までの取り組みの継続し、放射線量を低減すると共に、引き続き現場の生活・職場環境や健康管理等を充実させる。
- 【課題(9)放射線管理・医療】:ホールボディカウンタの増強、月1回の内部被ばく測定、個人線量の自動記録化、作業員に対する安全教育の充実、データベースの構築など長期的な健康管理に向けた検討等、放射線管理強化を行う。患者搬送の迅速化、予防医療などを含む産業衛生体制の確立等をはかる。
- 【中期的課題への対応】:政府は中期的安全確保の考え方を策定。東京電力はこれに基づく計画を策定する。